



帝京大学小学校だより

帝京大学小学校

集団からの学び、そして成長

帝京大学小学校 校長 石井 卓之

学校では、各教員が日々の授業の予定や振り返りを書いて私に提出する「週案」というものがあります。その中に、教員の指導に関する考えや悩み、子どもたちの成長に関する記載が数多くあります。私は、その内容を通して、様々な子どもたちの様子を知ることができます。また、それに対しての私の経験談や考え方を書いているので、私は勝手に、「交換日記」だと思っています。

学期末になると特に、4月には課題であったことがこんなに改善された、友達に対するやさしい声掛けの仕方から成長を実感したなど、1年間の変容が数多く書かれています。その記載を読みながら、私も担任と一緒に喜びを感じています。

今年度も、教育活動へのご協力、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

日々改善

先日の保護者会の後、階段で3年生の保護者の方から声をかけられました。今後の受験について、グループ校への進学に向けての学習の仕方、現6年生の進学の状況、資格試験などの情報を知りたいとのことでした。改めて、保護者会の内容がニーズに合っているのか、例年通りの資料で済ませていたのではないかなど、会の実施のスタイルやその内容について、次年度から改善を図る方向で調整を図りました。場合によっては、保護者の方にアンケートを取って、内容を定めることもあると思います。

グループ校である帝京大学中学校への進学者は、49名在籍の中の21名でした。帝京中学校は4名、帝京八王子中学校は1名、その他の子は他私立や公立という結果でした。この詳しい情報については、学校のホームページに4月から5月頃にアップ予定ですのでご覧ください(ホームページを大幅にリニューアルする関係でやや時間がかかります)。グループ校には、校長の推薦制度があります。私は、小学校での基本的な生活の仕方や集団での行動の仕方、学習への取り組み方など、進学先で前向きに取り組めるかどうかで判断しています。

学力については例えば帝京大学中学校では、外部受験は4教科ですが、資格試験(内部受験者である帝京大学小学校は2教科)があり、一定の水準が求められます。他のグループ校にもそれぞれ基準がありますが、これも絶対的なものではなく、募集人数や受験人数などの関係により、途中で変わることもあります。その際は、できる限り迅速にお知らせしていきます。次年度も、教育の核を明確にした上で、変化をためらわずに進めていきます。

職員室の窓

探究の時間で育成していく力の一つとして「理解していること・できることをどう使うか」があります。本校では里山プロジェクトやキャリアパスポートデーを始めとしたキャリア教育がこの力の育成に深く関わっていると言えます。各教科で知りえたものをどう生かしていくのか。どう使って未来を築いていくのか。豊かに考え行動できる子を育成していけるよう、先生も児童もワクワクできる探究にしていければと思います。



《教諭 齊藤 昌宏》



《教諭 山 淳子》

音楽科では「いい曲だな」「面白いな」「表現してみたいな」といった知性や感性を育む事を目標としています。活動の制限がなくなって以降、歌ってリズム打ちをしながら行進したり、指揮や楽器演奏の様子を真似ながら自由に音楽を聴いたりするなど、お友達と一緒に表現する楽しさを感じ取る事が出来るよう進めています。様々な音楽活動を通して、コミュニケーション能力や自発性や集中力など、高めていきたいと思っています。